

柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 32 号

平成17年12月3日
(大 祭)



忠
浄
の

心
を
清
く
し
て

照
如
業

今
の
錦

神
の
ま
は
り

『日本は森の国』

第一卷 「籠もりくの大和」

やまとは くにのまほろば たたなづく青垣 山こもれる 大和しうるはし

(古事記「倭建命望郷の歌」)

第二卷 「森のまつり」

木綿掛けて 齋ふこの杜 越えぬべく 思ほゆるかも 戀の繁きに

(万葉集・巻第七)

第三卷 「神ノ木・神の森」

斧入らぬ みやしらの森 めづらかに からたちばなの 生ふるを見たり

(昭和天皇御製「氣多神社の森」昭和五十八年)

第四卷 「森をつくる話」

うつくしく 森をたもちて わざはひの 民におよぶを さけよとぞおもふ

(昭和天皇御製・昭和二十二年)

第五卷 「森と現代文明」

とりがねに 夜はほのぼのと あけそめて 代代木の宮の 森ぞみえゆく

(昭和天皇御製「社頭暁」大正十年)

総集編 「日本は森の国」

いにしへの 人も守り来し 日の本の 森の栄えを 共に願はむ

(今上陛下御製「森」平成三年)

ハイビジョン映像作品集全六巻(社叢学会「愛地球博」) 出版実行委員会制作
『日本は森の国』 各巻タイトル・ソング歌詞の紹介

解説 秩父神社 (31)

秩父神社権補宜 甲田豊治

◆ 鎮宅靈符神 (一)

前号に述べたように、この度の解説では、妙見様に因んだお話をさせて戴くことにする。

今世行最初の国際博覧会である「愛・地球博」が開催され、多くの来場者を記録し、当社園田宮司が副理事長を務めるNPO法人 社叢学会が「森に生きる日本文化」を主題に「天空鎮守の森」・「千年の森」を出展。会場で上映された社叢学会制作のハイビジョン映像「森のまつり」とタイトルされる作品の中に熊本県は



八代神社



鎮宅靈符本宮・靈符神社

八代市に鎮座する八代神社の祭礼「やつしろ妙見祭」が収録されている。祭礼神幸行列には、道筋を浄める役の獅子2疋を先導に27もの豪華な行列絵巻が繰り広げられ、なかでも妙見祭に相応しい「亀蛇」(キダ)という亀と蛇が合体した想像上の動物のつくりものが練り歩く場面は独特なものである。この八代神社、明治以前は妙見宮と称され、上宮・中宮・下宮の三社が存在したが、現在のお宮は旧下宮の地に鎮座している。

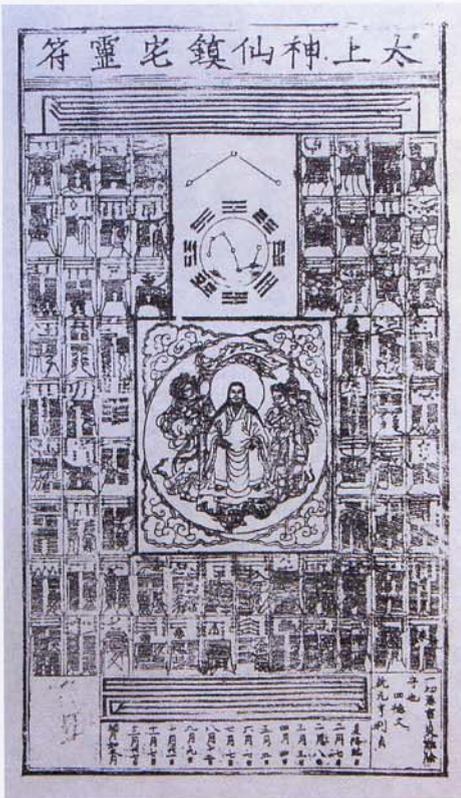
私がこの地を訪れた時、ハッとしたのはがちょうど神社の側にあるバス停の名が「宮地」と表記されており、この三社の名称が、秩父妙見に縁ある上宮地・中宮地・下宮地と重なって大変興味深いものであった。

この八代神社には、数百メートル離れた小高い山の上に、未社で

ある鎮宅靈符本宮・靈符神社が鎮座している。

鎮宅靈符(ちんたくれいふ)とは、あまり聞き慣れないかもしれないが、当社の夜祭りの主祭神である「妙見さま」と同じく意味するものであり、神仏習合時代のから、仏教・道教・陰陽道などから「妙見菩薩」・「北辰尊星王」・「真武神」そして、「鎮宅靈符」は共通する信仰を共有してきたのである。

鎮宅靈符本宮・靈符神社の縁起によれば、『肥後国誌』には、「妙見山ノ内



秩父神社に伝わる鎮宅靈符

赤土山ノ上ニアリ」と記され、また『鎮宅靈符神』には、百済国聖明王の第三王子琳聖太子が八代に渡来の際に伝えられ、肥後国八代郡白木山神宮寺に鎮座したのが日本最初の靈符神とされている。

靈符は上に太上神仙鎮宅靈符と題し、中央に本尊妙見の亀蛇に駕する像を図しその周囲に北斗七星七十二の秘法を書き、下に靈符の積を記してある。これを信仰すれば除災興業、富貴繁栄を得ると伝わっている。

写真にあるように、当社にも同様な靈符(版木)が伝わっていることから、次回では、靈符の意味するところについて述べてみたいと思う。

愛知万博の出展始末記

宮司 蘭 田 稔

去る十一月十六日の夕刻、東京のホテル・オークラで万博協会主催の「愛知万博」感謝の夕べが開催され、九月二十五日に閉幕した名古屋での半年間にわたる通称「愛・地球博」に参加した多くの関係団体や企業、官庁、ボランティアの代表たちが一堂に会して華やかなパーティが繰り広げられました。

かくいう私も、社叢学会による万博の企画出展を代表する責任者として招待を受けましたので、万博を成功裏に終えた喜びを共に祝うつもりで出席したのです。

広い会場での立食パーティには、名誉総裁を務められた皇太子殿下をはじめ、小泉純一郎首相や各閣僚、衆参両院議長、国会議員、各国外交官など政財官にわたる大勢の来賓も出席されて、いかにも今世紀最初の画期的な万博が大成功であったことを如実に示すような盛況ぶりでした。

申すまでもなく今回の大規模な万国博覧会は、三十五年前にアジアで最初に開催された大阪万博と同レベルの国家的な事業なので、当初は現代の情報化時代には時代錯誤の代物と批判されてその開催さえ危ぶまれたこともありましたが。しかし、その大テーマを「自然の叡智」と掲げることによって、全世界が直面する深刻な自然破壊の文明的病弊を、いわゆる「持続的開発」に

軌道修正するためのさまざまな技術開発、企業努力、市民運動、文化的提案など、従来の国威発揚を意図する万博とはまったく質を異にする、精神的に志の高い企画出展の場となったことが何よりの意義深い成功のもととなったと思われるのです。

私どもの社叢学会も、この大テーマに深く賛同し、我らが大切に思う「鎮守の森」文化を外内に訴える絶好の機会と考え、「森に生きる日本文化」を参加テーマに据えて企画出展に取り組んだのが、かれこれ三年前のことでありました。

○
そもそも私が、愛知万博に出展を思いついたのは、もう一つの理由がありました。

それは、来たる平成二十五年の秋を迎えることになる伊勢神宮の第六十二回式年遷宮の本格的事業が今年から八年がかりで開始される筈で、もちろん昨年この段階で天皇陛下のご治定を賜わったの日程ではありましたが、今年を「遷宮元年」として特に万博開催期間中の五月に神宮で御杣山祭と木本祭、六月の三日と五日には木曾山中のヒノキ美林で御杣始祭が斎行されることになると予測したからでありました。そこで多くの来場者が期待され、マスコミも注目する万博会場で、こうした伊勢の式年遷宮という、古代から一千三百年の伝統を誇る二十年に一度の貴重な森林文化を広く紹介することができれば、今後の国民総奉賛を呼びかける又とない弾みとなると考えたからでした。

○
幸いに、六月三日の御杣始祭を木曾の山中からハイビジョンによる実況中継をして万博会場の愛・地球広場で奉祝イベントを開催するという大胆な企ても、NHKの全面的協力と神社本庁や地元神社界、関東地区



博研修会（於：千年の森）

神社庁の応援を得て、秩父屋台囃子を
はじめ伊勢からの木遣音頭、裏木曾か
らの御神木奉曳車、大宮氷川神社の宮
町神輿の競演など二千人規模の大賑わ
いを実現し、しかもNHKテレビで全
国に放送されるなど大きな成果を挙げる
ことができたのです。

そのほか期間中常設の屋外出展には、
長久手会場の呼び物マンモスを展示し
たグローバルハウスに沿う巨大な緑化
壁（バイオラング）に建てられた二本の塔に「天空・鎮守の森」を植
栽し、また東ゲート付近の丘陵に「千年の森」を造成して、日本古来
の森林文化を紹介しながら、自主制作のハイビジョン映像作品『日本



埼玉県宗教連盟一行の愛知

今後の活動指針に裨益するところ大であったことも申し添えて、愛・
地球博への出展参加の記録にとどめる次第であります。

は森の国」を来場者たちに観賞して
もらうなど、地元青年神職会や社叢
学会の会員を中心に多くのボランテ
ィアの協力で所期以上の収穫が得ら
れたことを、いま大変に有難く実感
しているところです。

社叢学会としても、尾張一ノ宮の
真清田神社で開催した六月四日の万
博記念国際シンポジウム「森、水そ
して生命」社叢が育む命の根源」が、

【表紙歌解説】

忠浄の 日々と重ねて 照紅葉

しばしの錦 神のまにまに

表紙の和歌は、過日開催された「園田宮司の神職身分特級昇進を祝う会」に際し、神社
本庁の顧問・長老である櫻井勝之進先生がお寄せ下さった俳句

忠浄の 日々と重ねて 照紅葉

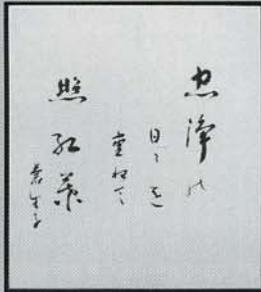
を畏こみ、この句を上への句として園田宮司が返した歌
です。

「忠浄」とは、『続日本紀』巻四の和銅元年（七〇八）
七月の条に、「忠浄守臣子之業、遂受榮貴」とあり、時の
元明天皇が臣下の者を褒めた言葉とされていますが、
同書正月の段には秩父地方から和銅が献上されたこと
が記されており、当地方とは特に縁の深い六国史であ
ると言えるでしょう。

これに対する下の句は、百人一首に収められた菅原
道真公の歌

このたびは 幣もとりあへず 手向山

もみぢの錦 神のまにまに



を踏まえたものです。
旅立ちの慌ただしさに、御幣の準備もそこそこ神の坐す手向山に至り、折りしも
木々の紅葉が錦のようであったことから、御幣の代りにその紅葉を神に捧げたという歌
です。

あらためて櫻井先生のご配慮に深甚なる感謝の意を申し上げます。

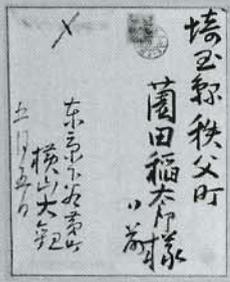
【表紙絵解説】

横山大観「秩父神社・柞の杜」扇面画

この度の表紙は、近代日本画の巨匠横山大観画伯が描かれた作品「秩父神社・柞の杜」
を掲載させて頂きました。

大観は、明治元年水戸で生まれ、明治二十二年東京美術学校の一期生として入学。明
治三十一年東京美術学校時の師であった岡倉天心と共に
日本美術院の創立に参加し、朦朧体と呼ばれる西洋画法
の導入や斬新な着想による作品を発表。昭和十二年には
第一回文化勲章受章。昭和三十三年の作品「不二」が絶
筆となります。

この度の表紙の扇面画は、昭和三年に秩父神社が國幣
小社昇格当時に、先々代の園田稲太郎宮司が、兼ねてか
ら親交のあった大観に依頼して描かれたもので、往時の
神社を林相豊かに表現した素晴らしい作品です。



宮司昇進祝賀会報告

当社の蘭田稔宮司には、永年にわたる神明奉仕と斯界発展への功績が認められ、神職身分の最高位にあたる「特級」に昇進したことから、関東地区の各県神社庁長をはじめ、秩父市長・秩父商工会議所会頭・三峯神社宮司・当社大総代が発起人となって特級昇進祝賀会が開催されました。

十月三日には当社参集殿を会場に、総代・講演など平素より神社の護持運営にご尽力を戴きます地元の皆様、総勢百九十名のご参集



10月3日 秩父神社参集殿



10月21日 西武長瀬ホテル

のもと、親しく盃を交わすことができました。

また、十月二十一日には西武長瀬ホテルを会場として、神社本庁より矢田部正巳総長様、神宮より高城治延少宮司様など、全国より百八十三名のご来賓をお迎えし、盛大に開催することができました。先の頁で解説致しました通り、表紙の和歌は、この祝賀会に際し神社本庁の顧問・長老である櫻井勝之進先生が蘭田宮司のためにお寄せ下さった俳句を上句として、更なる神明奉仕を誓うべく、蘭田宮司が下の句を添えて返した歌となっております。

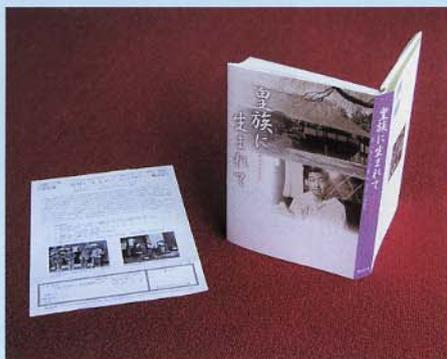
秩父宮会 推薦図書

社団法人秩父宮会

会長 井上 久

『皇族に生まれて
— 秩父宮随筆集 —』

本年は秩父宮勢津子妃殿下が薨去あそばされて十年というひとつの節目の年にあたることから、秩父宮家縁の方々が相議りまして、かつて昭和三十九年に妃殿下が亡き親王殿下を偲ばれて特別に限定出版された『思ひ出の記— 秩父宮雅仁親王文集 —』(非売品



を底本とする秩父宮様の新たな随筆集がこのたび刊行されました。

昭和天皇の一歳下の直宮であられた秩父宮殿下には、戦後すぐの昭和二十一年より薨去あそばされる前年の昭和二十七年までの間に、多くの玉稿を新聞・雑誌等へ発表されました。当時としてはまさに画期的なことで、戦後をはじめ世に出た皇族の自叙伝などと大きくマスコミに取り上げられました。

何れの随筆も思うところを自由に書き綴られ、香り高く味わい深い内容になっており、幼い頃の御父母両陛下や兄弟宮たちとの懐かしい思い出、新しい制度の下での皇室の伝統的な在り方、そして病魔との闘いの記録から趣味やスポーツに至るまでと広範囲にわたっています。

これら珠玉の随筆により、激動の時代を重い病苦に耐えながら、一人の皇族として真摯に生き抜かれた秩父宮様をより身近な存在として感じて戴きたく、多くの皆さまには是非お読み戴きたい図書としてご推薦申し上げます。

《渡辺出版 定価四、二〇〇円》

新井大総代逝去のこと

新井一夫大総代は大正九年七月のお生まれ。家業の織物業に身を投じられ地場産業の担い手として織物関係に誠心誠意尽力なされました。昭和五十年九月その手腕を買われ第八代の秩父市助役として行政の道に転じられ、二代の市長に仕え扶けると共に長く市政発展にご貢献なされました。また、若き頃より鍛えた剣道の道に多年精進され秩父剣道連盟会長を歴任、現在は県連共に顧問として後進の指導を重ねられました。この間、昭和三十六年弱冠四十歳の若さで



10月3日宮司昇進祝賀会にて

大総代にご就任、爾来四十有余年神社の護持運営にご尽力賜りました。先の昭和の御改修事業に続き今般の平成御大典記念事業に際しましても記念事業奉賛会副会長並び建設委員長として職務を全うされ境内景観一新に多大なるご貢献を尽されました。中でも戦後間もない頃武道の必要性を痛感され、青少年の健全育成を目指して秩父神社奉納埼玉県下武道大会を企画、その一員として第一回大会開催以来五十回大会を迎えんとする多年の功績は洵に顕著であります。暑さ寒さの厳しい中でも自ら竹刀を携え稽古に専念される御姿は後世まで語り継がれるものと存じます。例大祭はじめ、年間の諸祭典に或は大総代会に御参列出席を賜り、いつも変らぬ崇敬篤き御姿に感謝申し上げます。永い間のご奉仕に對しまして厚く御礼申し上げますと共に、謹みて御冥福をお祈り申し上げます。

ふくろう 梟だより

◆ 平成18年干支 狛犬のこと



狛犬は大陸から伝わったもので、当初は二頭の獅子(ライオン)が並び置かれていたといいますが、それが平安時代の初期に、右側には口を開いている獅子、左側には口を閉じていて尚且つ頭には角がある狛犬になったそうです。ちなみに、当社の狛犬も古い形態にならない、お宮に向かって右側に口を開けて、所謂「あ・うん」の対になっていきます。そして頭にもちやんと角が存在していました。

平成十八年の干支は戌歳でもありますが、皆さんも全国各地のお宮にお参りの際は、狛犬(獅子)のことを気に掛けてご覧になっては如何でしょうか。他にもさまざまな形態の狛犬がいるそうです。



◆ 秩父神社妙見講

自 平成十七年 九月
至 平成十七年十一月

- 九月 四日 小鹿野講
- 九月 八日 小菅健夫講元外百三十四名
- 九月 八日 川口三栄講
- 九月 十八日 金子秀行講元外二十九名
- 九月 十八日 上町講
- 十月 一日 松本眞一講元外二百二十七名
- 十月 一日 荒川妙見講
- 十月 二日 浅海 忠講元外七十名
- 十月 二日 上宮地講
- 十月 二日 今井奎吾講元外二百六名
- 十月 二日 中村講
- 十月 二十六日 高橋信一郎講元外三百八十九名
- 十月 二十六日 東町妙見講
- 十一月 十一日 出浦義雄講元外百十四名
- 十一月 十一日 番場講
- 十一月 十七日 宮野前方也講元外百五名
- 十一月 十七日 野坂講
- 十一月 十七日 新井永保講元外二百四名

◆ 柞乃杜神前結婚式報告

- 秩父市栃谷 大島庄治・久美子様
 - 秩父市下影森 越 健一・瑞穂様
 - 秩父市厚木市 新井章史・三保様
 - 秩父市大野原 嶋崎哲也・聖子様
 - 秩父市大野原 原田 勝・はるみ様
 - 横瀬町横瀬 千島康利・枝里子様
 - 秩父市荒川 千嶋健一・瑞穂様
 - 東京都世田谷区 宮前 功・織枝様
 - 秩父市山田 大嶋和樹・貴美子様
 - 秩父市野坂町 齊藤 勲・恵子様
 - 秩父市久那 福島義雄・郁世様
- 未永く幸せなご家庭をお築き戴きたくお祈り致します。

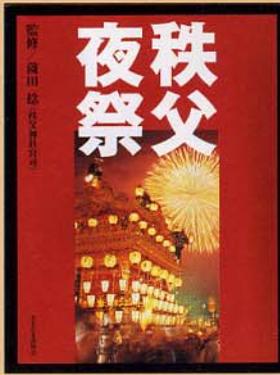
◆ 干支張り子犬



秩父神社は、名工左甚五郎作「子宝・子育ての虎」の社殿彫刻や秩父宮様お手植えの「乳銀杏」は、大変有名で、近隣より安産・命名・初宮詣・一歳の誕生祭・七

五三詣等多くのご参拝を戴いております。子孫育成の信仰が盛んであります。また、平成十八年の干支である戌（いぬ）は、実りや財を象徴する動物とも伝わることから、皆様方のご家庭をお守りすると同時に、良いご縁に恵まれますことを祈念し、この度秩父神社縁起物として奉製致しました。

◆ 宮司監修「秩父夜祭」刊行



この度、さきたま出版会から当社宮司監修の「秩父夜祭」が刊行されました。秩父夜祭に関する事が詳細に掲載され、夜祭りにお越し戴いた方には、ガイドブックに最適な一冊となっております。お祭りの歴史や屋台・笠鉦の解説、更にはみどころポイント等、広く深く秩父のお祭りを楽しんで戴けるものと思えます。



● 本年の厄年 (この前後の年が前厄・後厄に当たります)

| | | |
|----|----------|-----|
| 男性 | 昭和57年生まれ | 25歳 |
| | 昭和40年生まれ | 42歳 |
| | 昭和21年生まれ | 61歳 |
| 女性 | 昭和63年生まれ | 19歳 |
| | 昭和49年生まれ | 33歳 |
| | 昭和45年生まれ | 37歳 |

平成十八年は、皇紀二六六六年丙戌(ひのえいぬ)年です。十八年は、上記したような方位吉凶図になり、厄年の方の生まれ年も表のようになります。また、九星では三碧木星・六白金星・八白土星・九紫火星の方々の方位が悪いとされます。ご自分の生まれた星が凶方に巡ってくる方は、厄除・方位除け祈願をお薦め致します。詳しくは社務所にご相談下さい。

◆ 水興会作品展



十月二十六日から十一月六日までの期間、平成殿二階展示ホールにおいて、前回表紙絵に掲載させて戴いた古館興先生が主催する「水興会」

の作品展が開催されました。会員の方々が、生活のなかにある様々な風景を、墨の濃淡できめ細やかに表現された作品を拝見していると、時がとめても緩やかに流れ心とむ何か懐かしいな気持ちになる空間となりました。

また、写真にある扇面画は、当社園田宮司が神職身分特級昇進のお祝いに際しまして、古館先生が制作された作品であります。柞の杜の葉々たちが、夜祭りを



編集後記

■この度の例大祭は、曜日にも恵まれ全国各地から大勢の参拝の方々をお迎えし、ここに社報柞乃杜第32号をお届け致します。

■本年開催された万国博覧会「愛・地球博」は「自然の叡智」をテーマに、これからの地球環境に関し、様々な分野から様々な提言がありました。

■自然環境に関して言えば、地球温暖化は深刻な問題となってきました。アラスカや富士山頂上付近に存在する永久凍土という地層が温暖化により溶け始め、このことがどのような悪影響を及ぼすか大変心配されています。そう言えば、万博の呼び物であったマンモスもこの永久凍土から発見されたものでした。

■過剰なエネルギー消費がもたらす自然環境破壊を今だからこそ抑制し、この美しい地球という財産を守っていかねければと考えます。

※本報の用紙はグリーン・ユトリロマット100の再生紙を使用しています

平成十七年(二〇〇五)十二月三日
 編集 秩父神社社務所
 発行 秩父神社社務所
 〒366-0004 埼玉県秩父市番場町一―三
 TEL (0494) 221-0262
 FAX (0494) 241-5596
 印刷所 有限会社 拓文社印刷所
 〒366-0004 秩父市東町二七―八